

H30学力向上アクションプラン(臼杵市)

目標及び指標

達成指標	取組指標
【目標】 ①児童生徒の課題に関する目標 ○主体的・対話的で深い学びの実現による確かな学力の定着 ②学校等が抱える組織的・構造的な課題に関する目標 ○授業改善に向けた学校ごとおよびブロック内のカリキュラムマネジメントの推進 ○臼杵市小中一体教育の深化・発展(学校間および校種間連携、「学習のきまり」の徹底)	指標1 各種学力調査の結果分析をもとに、改善策を小中の教科部会で共有し、課題のある問題や内容を小学校市内統一問題や「うすきチャレンジ」の問題作成に反映 100%実施。 指標2 小学校:長期休業中の市内統一問題の日常的・継続的な活用 100%実施。中学校:「うすきチャレンジ」(15の春に向けての15分)の組織的・継続的な取組み 100%実施。
○全国学力・学習状況調査において、全国平均正答率を超える。 ○大分県学力定着状況調査において偏差値50を超える。	指標1 学力向上支援教員等がカリキュラムマネジメントするTU(チーム臼杵)研修Aを年3回実施し、「わかった、できた」と子どもが実感できる方策を発信する各教科部会 100%実施。 指標2 若年層(教職経験10年未満)を対象とした授業実践学習会への対象者参加率 100%
全国学力・学習状況調査(児童生徒質問紙:肯定的回答割合) ○教科の勉強が好き(国語、算数・数学) 小6国 70% 小6算60% 中3国65% 中3数 55% ○教科の授業が分かる(国語、算数・数学) 小6国 85% 小6算 85% 中3国80% 中3数60%	指標1 小中一体教育の全5ブロックの学力向上部会および教務主任会議にて、小中の分析結果をもとに成果と課題を共有し、対策を協議する。100%実施 指標2 全ての中学校において入学直後のテストを統一して実施する。結果を各ブロック、出身小学校ごとに整理分類し、結果を各小学校と情報共有する。市内18校 100%実施
全国学力・学習状況調査(学校質問紙:肯定的回答割合) ○全国学力・学習状況調査の他校種(小⇄中)との成果や課題の共有 小学校50%(H29 38.5%) 中学校80%(H29 60.0%)	

行動計画

- ①「新大分スタンダード」に基づく組織的・計画的な授業構想による質の向上について
- 授業改善「39チェックシート」の重点項目(評価規準の適切な設定と実施)の徹底。学校訪問時作成の39チェックシートに管理職の指導助言を記載したものおよび各訪問の中で受けた指導事項の徹底についての報告書を市教委に提出。翌月の定例教育委員会で報告、説明。校長会でも徹底を図る。
 - 若手教員への授業力向上のためのフォローアップ
 - 若年層を対象とした授業実践学習会を実施し、指導教諭、学力向上支援教員、習熟度指導推進教員を講師とする(夏季休業中の研修会)。
 - 学力向上支援教員を効果的に活用し、実効性のある指導支援の実施(小:関係校訪問での指導支援対象を若年層に焦点化、中:3提言の推進重点校である西中学校の教科部会への積極的な参加)
 - 学力向上支援教員等の授業力の共有、テーマ別授業公開を行う(例)思考スキル・思考ツールを活用した授業
 - 校長会の学力向上プロジェクトと市教委の連動
 - 小:長期休業中の市内統一問題の日常的・継続的な活用
 - 中:うすきチャレンジ(15の春に向けての15分)の組織的・継続的な実施。チームで活用問題を作成し、解答類型づくりにより日常の授業改善をめざす。
 - ミドルリーダーが達成指標を設定しカリキュラムマネジメントするTU研修A(年3回)の仕組みを構築TUプロジェクト(数、英、理)数学と理科の授業改善を重点
 - 大分大学から講師を招聘して講義・演習や定期テストの共有による活用問題の検討等
 - 習熟の程度に応じた指導体制の推進
小中で情報共有の場を設定し、習熟度別指導推進教員による効果説明を行う。「習熟の程度に応じた指導体制の導入促進と効果」について、平成29年度2月に校長研修の実施。
 - 英語教育と理科教育の充実・強化
小中一体教育および小中部会の連携強化(教科領域の合同部会および小中一体教育ブロックごとの合同研修会の開催)
- ②「中学校学力向上3つの提言」に関して
- ◆「教科指導力の差が生徒の学力差を生まない」ために、「チーム臼杵:TU」として西中を核にした全5校の協働的、組織的な授業改善を推進し、生徒の学力向上をめざす。
 - ◆中学校学力向上「3つの提言」推進重点校に指定された西中学校の2年目の取組に対する指導・助言を大分県教育庁義務教育課、大分教育事務所等と連携して充実し、北中学校及び東中学校へつなげ、市内全体への波及を図る。
- 【提言0】臼杵市小中一体教育の学力向上部会を充実させ、小学校と中学校の連携を図る。
各種学力テストの結果分析と対応、各ブロックの統一した学習規律の徹底、家庭学習のしよりの効果的活用、中1の4月実力テストを統一し、結果を出身小学校と共有してその後の課題解決を図る。
- 【提言1】臼杵市教育研究協議会助成研究発表校の北中学校と西中学校を授業改善でつながる仕組みを構築する。研究発表に臼杵市の全中学校教員が参加し、授業改善について協議する。
・2校の合同教科部会を開催する。また、研究発表会に向け西中のミドルリーダーを北中に派遣する
・臼杵市中学校学力向上戦略会議を毎週金曜午後西中学校で開催し、臼杵市の学力について2校のミドルリーダーによる検証・改善サイクルづくりを実施する。
- 【提言2】若手教員等の育成計画(OJT)の仕組みとして、自校の教科部会を充実するとともに、管理職による授業観察を活かし必要に応じて西中学校の教科部会に出張で参加させる。また研究授業を行う際の指導案作成についても西中学力向上支援教員等の指導を受ける仕組みづくり(TU研修B)
- 【提言3】生徒による授業評価の活用について西中の実践を交流し各校の取組に活かす
西中の主幹教諭が教務主任会、西中の指導教諭が研究主任会へ取組報告を行い、各校の状況を共有する学びに向かう学校、学びに向かう生徒の育成のため、特別活動部会を充実させる
- ③新学習指導要領の実施に関して
- 実施状況の進行管理(市教委⇄各学校⇄各学年、学級) * 教務主任等のミドルリーダーの活用
 - H29年度2月の教務主任会議にて完全実施および先行実施の項目確認
 - H30年度4月校長会にて再度確認、徹底
 - 5月教務主任会議にて各校の教育課程をもとに進捗状況の確認
 - 11月教務主任会議にて検証・改善(中間)
 - 2月教務主任会議にて検証・改善(次年度への課題)。
 - カリキュラムマネジメント研修 岐阜大学教職大学院 原尚特任教授の招聘の実施
 - 特別な教科道徳 実践研修会 引き続き、大分県教育庁義務教育課の協力による研修会の実施。
 - 外国語教育早期化・教科化に対応した全員学習会 APU大学准教授や大分県教育庁義務教育課等の協力による研修会の実施。英語教育の小中接続のあり方を含む。また、小学校外国語科の学力向上支援教員を配置し、外国語教育のモデルとなる授業公開、教育課程への指導助言、校内研修での実践紹介および指導・助言
 - 「主体的・対話的で深い学び」研修会の実施 鳴門教育大学泰山裕先生招聘し、思考ツールを活用し、思考スキルを高めるための授業研究会の開催。
 - コミュニティ・スクールの促進
⇒活用プログラム研修の実施、協育コーディネーターを核としたコミュニティ・スクールの構築、土曜ふれあい学校との連動による家庭、学校、地域が協働した子ども育て(平成30年度指定予定校:佐志生小、下ノ江、海辺小、下北小、上北小、下南小、南野津小、東中の7校⇒平成30年度はじめ 臼杵市の指定校数:11校/18校)
 - プログラミング教育の普及 ICTスマートデザイナー(新、旧)を核とした研修、授業実践の交流。タブレット端末などの環境整備